

平成16年度推奨の優良図書

平成16年4月推奨

『蹴りたい背中』

綿矢りさ著

中学生、高校生、青年及び一般対象

主人公は、クラスに馴染めないでいる高校1年生の長谷川初美こと「ハツ」。もう一人のクラスの余り者である「にな川」とのいびつな友情が、それとも臆病な恋なのか、二人の関係をハツの内面に沿った視点で描きだした小説である。

第130回芥川賞受賞作品であり、また19歳という史上最年少の受賞として話題となった。高校生の時に感じる、言葉に言い表せない気持ちの動きを上手く表現しており、人間は複雑で割り切れないものであることを証明した作品。



河出書房新社発行

平成16年4月推奨

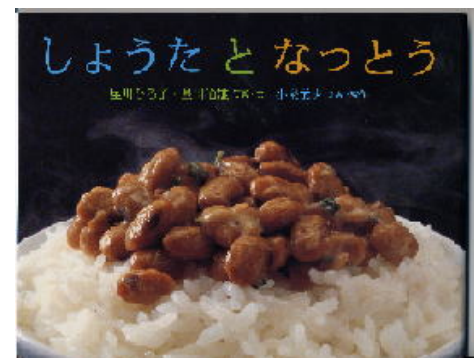
『しょうたとなっとう』

星川ひろ子・星川治雄著（写真・文）/小泉武夫（原案・監修）

小学生（中学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

納豆嫌いの男の子しょうたが、祖父と一緒に大豆の種を蒔き、その生長や変化を観察したり、収穫したり、大豆を納豆にして変身させる体験を経て、納豆が好きになる。二人の触れ合いを通して食の大切さを描いた写真絵本である。写真が読者の理解を深めるとともに、しょうたの写真に自分を投影し、祖父と一緒に作業しているような楽しい気持ちを味わうことができる。

「私がこの写真絵本作りに参加したのは、納豆を始めとする豊かな日本食を子どもの頃からしっかりいただき、心身ともに健全な日本人に育てて欲しいとの願いからです。」と小泉武夫氏の文章にあるように、青少年の健全な育成を図る上で役立つ作品である。



ポプラ社発行

平成16年6月推奨

『世界で一番いのちの短い国 シエラレオネの国境なき医師団』

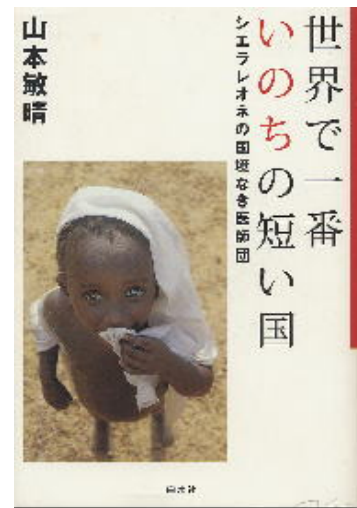
山本敏晴著

中学生、高校生、青年及び一般対象

アフリカの西部に位置するシエラレオネ共和国は、平均寿命が日本の

3分の1であるなど、医療事情が世界で最も悪い国である。その国へ国境なき医師団から派遣された日本人の若き医師団が、本当の国際協力を目指して奮闘する姿を描いたノンフィクションである。

重くなりがちな内容を、著者の前向きに取り組む姿勢、明るい語り口が本書を血の通った国際協力奮闘記にしている。国際協力に携わる人々も様々な個性を持った人間であり、現地で生きる人々も独自の文化・習慣を培ってきた人々であり、先進国の人間が貧しい国の人を助けるといった意識ではなく、対等な立場に立つことが重要であるという著者の訴えが伝わっており、青少年が正しい知識と教養を深め、思考力及び観察力を養う上で役立つ作品である。



白水社発行

平成16年6月推奨

『ぼくは弟とあるいた』

小林豊著

小学生（低学年及び中学年）対象

町に戦争が近づいてきた。ぼくと弟のエルタンは、戦火から逃れるため、二人だけで南の町に住むおじちゃんの家に行くことになった。避難する人たちでいっぱいになったバスは、途中の砂漠の真ん中で故障し、ストップする。助けに来た旅芸人一座との交流、岩間での野宿などを通して、互いに黙り込んでいた乗客が町に着く頃には家族のように仲良くなる。平和に感じられる町のちょっとしたところに戦争の影響が見られる。同じ年齢の少年の体験から戦争で隣り合わせのところで生きる人々のことを身近に感じることができ、また、親子で一緒に読み、世界で何が起きているかを話し合うきっかけとなり、青少年の人間的な愛情を豊かに育てる上で役立つ作品である。



岩崎書店発行

平成16年8月推奨

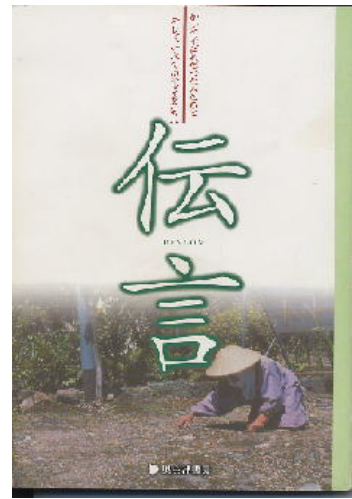
『伝言』

小学生（中学年以上）、中学生、高校生、青年及び一般対象

奥会津に暮らしてきた60歳から90歳代の方（いわゆる古老）20組の「聞き書き」という手法でまとめられた作品である。

地元の方で語られている多くは、必要な物は自らの手で作り、多くは望まず、家庭や地域の絆を大切に、質素に、しかし心豊かに生き生きと暮らしてきた人々の、全く気負いのない生き様であり、奥会津の文化や生活の良さが語られ、心に響くものがある。

あとがきに「次代を担う子どもたちが、いつか壁に突き当たった時、希望を失いかけた時、ここに登場した先達の言葉は、きっと足下を照らす灯りとなると信じています。」とあるように、子どもたちへの願いが込められており、人間的な愛情を豊かにし、正しい知識と教養を深める上で役立つ作品である。



奥会津書房発行・編集

平成16年8月推奨

『ユウキ』

伊藤遊著

小学生（中学年以上）、中学生対象

ケイタが友達になった転校生の名前は、なぜかいつも「ユウキ」だった。仲良くなった頃、彼らは転校し、ケイタの前から去っていった。6年生になった4月に転校してきた優希は占いの得意な女の子だった。クラスに転校生が来るという誰もが一度は経験したであろう出来事が、物語を身近に感じさせる。また、友達との関係や距離、自分自身についての悩みと、読み手の子どもたちが日々の生活の中で感じ、考えることが重なり、共感できる。また、転校という人と人との出会いと別れを通して成長していく子どもたちの特徴的な心の動きをよく描いており、子どもたちの健康な心身の成長を図り、人間的な愛情を豊かに育てる作品である。



福音館書店発行

平成16年8月推奨

『10センチの空』

浅暮三文著

中学生、高校生、青年及び一般対象

大学4年生で就職活動まっただ中の主人公敏也、進みたい道が定まらず、なりたい職業もなく過ごしている。しかし、敏也は10センチだけ空を飛べる能力を持っている。ある日、ラジオ番組に出した手紙がきっかけで小学生の頃にタイムトリップし、少年時代に置いてきた何かを思い出

していくという青春ファンタジー作品。

何かをできるようになりたいと強く願っていること、友達を裏切ってしまったときに申し訳ないと感じた純粋な気持ちを思い出す中で、自分の進むべき道が見えてくる一人の青年が描かれており、青少年が健康な心身の成長を図る上で有益な作品である。



徳間書店発行

平成16年11月推奨

『ちいさな赤い灯台』
ビルガード・H・スウィフト著
幼児及び小学生対象

ちいさな赤い灯台と大きな灰色の橋、それぞれに役割を持ち、船や飛行機、人々の安全を守っている。その力や存在の意味は体の大きさや光の強さで比べられるものではない。

この作品からは、小さなことでもできることを精一杯やることで自分を表現し、周りの人々を勇気づけたり、道標となったりできるということを感じることができる。また、自分の居場所がある、存在を認める仲間がいることのすばらしさを伝えてくれる作品である。

アメリカで1942年から出版され、永く親しまれてきており、子どもに媚びることのない美しい文章と、物語にふさわしい絵で、日本の子どもたちに紹介されており、子どもが成長する過程において、健康な心身の成長と豊かな人格形成を図る上で役立つ作品である。



B L 出版発行

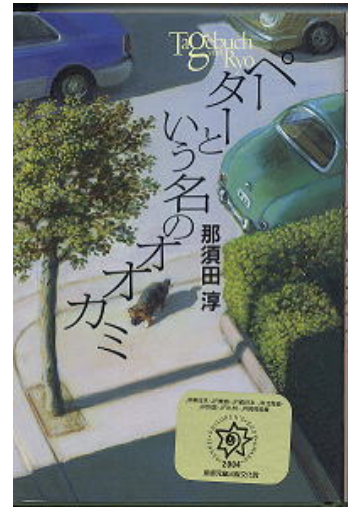
平成16年11月推奨

『ペーターという名のオオカミ』
那須田敦著
中学生、高校生、青年及び一般対象

子どもの立場であることに歯がゆさを感じる少年たちが、子オオカミを群れに戻すという冒険を通して、周囲の社会や歴史に目を向け、自分の気持ちや立場を客観的に理解し成長していく様子が描かれている。また、日本の少年の目を見たドイツの文化や町、自然。歴史及び命や自由の大切さが、とてもわかりやすく書かれている。特に同世代の読

者は、主人公と一緒にベルリンの壁の歴史を知ることができ、ドイツという国に興味を持つことができる。

この作品は、青少年の自然を愛する心を育てるとともに、ドイツのベルリンの壁の崩壊という歴史上の出来事についての知識と教養を深め、思考力、判断力又は観察力を養うことのできる作品である。



小峰書店発行

平成16年12月推奨

『ナム・フォンの風』
ダイアナ・キッド著
小学生（中学年及び高学年）対象

ベトナム戦争が終わる1975年頃、ベトナムからオーストラリアに着いた難民の少女ナム・フォン。家族の消息もわからず、一人で異国にやってきた。

大きな悲しみを背負ったが故に、しゃべらない、学校でも独りぼっち、いつも心の中で故郷ベトナムの風景や消息のわからない家族のことを思い、心を閉ざした少女が、周囲の大人やクラスメイトの温かさに触れ心を開き、大きな悲しみから立ち直っていく姿を描いた物語。

主人公ナム・フォンの心の様子が少女の言葉で丁寧に描かれており、ここからは異なる文化を持っていても、お互いに思いやる気持ちがあればわかりあえるということ、どんな境遇でも強い心で前向きに生きている子どもがいることを知ることができ、子どもたちの人間的な愛情を育てるとともに、健全な心の成長を図り豊かな人格形成に役立つ作品である。



あかね書房発行

平成17年2月推奨

『ワニてんやわんや』
ロレンス・イエップ著
小学生（中学年以上）対象

主人公のテディは、いわゆる「おりこうな」弟ボビーに劣等感を感じ、なかなか素直に弟をかわいがることができない。テディは弟を驚かせようと彼の8歳の誕生日に「ワニ」をプレゼントしたが、ボビーは驚くどころか、

そのワニを飼うと言い出し、家族や親戚、取り巻く人々を巻き込んだの大騒動となる。

チャイナタウンの様子や文化、ワニを飼うことで起きる出来事が明るく、ユーモラスに描かれているため、子どもたちが楽しく読むことができる。

また、ワニ騒動を通して弟や家族の気持ちがわかり、テディの気持ちが解きほぐされ、家族の絆が深まっていく様子が描かれており、子どもたちが成長する過程において、人間的な愛情を豊かに育てることができる作品である。



徳間書店発行

平成17年2月推奨

『大草原の奇跡』

アラン・W・エッカート著

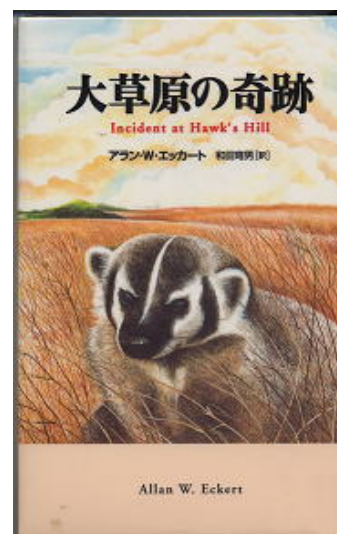
小学生（高学年）、中学生、高校生、青年及び一般対象

カナダ西部に暮らす開拓者の子ベンが、嵐の中で迷子になってしまい、逃げ込んだ穴で訳2ヶ月間、アナグマと寝食を共にし、家族の手により奇跡の生還を果たすという実話に基づき構成された物語。

人との交わりが不得意だった少年が、厳しい自然の中でアナグマと心を通わせ、種を越えた愛情を育てていくということから、相手を受け入れることの大切さや生命の尊さを学んでいくことができる。また、この作品は少年の成長物語であるとともに、息子を見守り理解することができるようになる父親の成長物語である。

今、家族の崩壊や親子の断絶が問題となっているが、相手を理解しようと努力することや、受け入れることで、家族や親子の再生の道を探ることができる。

思春期の青少年に、見守ってくれる家族の愛情を語りかけて暮れる内容であり、青少年自らが人間的な愛情を豊かに育てることに役立つ作品である。



めるくまーる発行